

平成29年度

東京都立高等学校入学者選抜学力検査結果に関する調査

報告書

平成29年6月

東京都教育委員会

はじめに

東京都教育委員会は、東京都立高等学校入学者選抜学力検査結果に関する調査を毎年実施し、中学校、義務教育学校及び高等学校の教科指導に活用できるよう、その結果を公表しています。

東京都立高等学校入学者選抜学力検査問題は、中学校学習指導要領に示されている教科の目標及び内容に照らして、一部の領域に偏ることのない基本的な事項から出題されています。言い換えれば、入学者選抜のための問題であるとともに、中学校又は義務教育学校の教育課程を修了する東京都の中学生一人一人の学習成果を測るものといえます。

平成29年2月24日に実施した学力検査に基づく入学者選抜には、約49,000人もの生徒等が受検をしました。本調査報告書では、学力検査結果を分析し、各教科の平均点、得点分布及び各問の正答率や、正答率の低い問題を中心に主な誤答や誤答に至った原因分析等を掲載しています。

国語・数学・英語・社会・理科の各教科において、どのような分野や領域の力が身に付いているのか、また、苦手としているのかなど、東京都の中学生の学習状況の実態を表したデータにより、中学校及び義務教育学校においては、調査結果と自校の生徒の状況との比較による成果と課題の把握や、生徒の習熟の程度を高めるために必要な指導方法の工夫・改善等に活用することができます。また、高等学校においては、調査結果と入学した生徒の学力検査結果との比較による学力の分析や、生徒の実態に基づいた学習指導計画の立案、学力向上に向けた指導方法の工夫・改善等、「都立高校学力スタンダード」の策定に活用することができます。

各区市町村教育委員会や各中学校及び義務教育学校並びに高等学校におかれましては、本調査報告書に掲載した内容等を、生徒の実態把握や授業のねらいの設定など、生徒の様々な力を伸ばす学習指導に活用していただければ幸いです。

平成29年6月

東京都教育委員会

目 次

I	平成29年度東京都立高等学校入学者選抜学力検査問題出題の基本方針	1
II	調査目的	1
III	調査内容	1
IV	調査結果	
1	概要	1
(1)	教科別受検者数	
(2)	教科別実施校数	
(3)	教科別平均点	
2	各教科	2
(1)	国語	2
(2)	数学	4
(3)	英語	6
(4)	社会	8
(5)	理科	10

参考資料

1	平成29年度東京都立高等学校入学者選抜学力検査問題 (第一次募集・分割前期募集)	12
2	平成29年度東京都立高等学校入学者選抜学力検査問題 (第一次募集・分割前期募集) 正答表	26

I 平成29年度東京都立高等学校入学者選抜学力検査問題出題の基本方針

- 1 中学校の教育課程に基づく学習の成果としての学力を検査することを基本とし、出題の範囲は、中学校学習指導要領に示されている内容によるものとする。
- 2 出題の内容は、各教科とも、中学校学習指導要領に示されている教科の目標及び内容に照らし、基本的な事項を選ぶとともに、一部の領域に偏ることのないようにする。
- 3 出題に当たっては、基礎的・基本的な知識及び技能の定着や、思考力、判断力、表現力などをみるとともに、体験的な学習や問題解決的な学習などの成果もみることができるようにする。

II 調査目的

- 1 上記Iの基本方針に基づき東京都教育委員会が作成した学力検査問題（以下「共通問題」という。）を受検した者について、その学力の実態を把握する。
- 2 各教科・各問の正答及び誤答を分析し、その結果を中学校、義務教育学校及び高等学校に提供することで、各学校における教科指導の改善に資する。

III 調査内容

平成29年度入学者選抜の第一次募集・分割前期募集（平成29年2月24日実施）において、全日制高等学校を志願し、共通問題により学力検査を受検した者について、次の調査を実施した。

- 1 教科別の平均点及び得点分布
全数調査により、教科別得点状況等を調査した。
- 2 各教科の小問・大問正答率
抽出調査により正答率を求めた。調査に当たっては、信頼度95%を担保するに十分な人数の受検者を抽出した。
小問正答率は、小問において、抽出した受検者数に対する正答（部分正答を含む。）者数が占める割合である。大問正答率は、大問において、各小問で抽出した受検者の総数に対する、各小問での正答（部分正答を含む。）者の総数が占める割合である。

IV 調査結果

1 概要

(1) 教科別受検者数

国 語	数 学	英 語	社 会	理 科
40,198人	40,199人	39,974人	44,481人	44,481人

(2) 教科別実施校数

国 語	数 学	英 語	社 会	理 科
153校	153校	152校	167校	167校

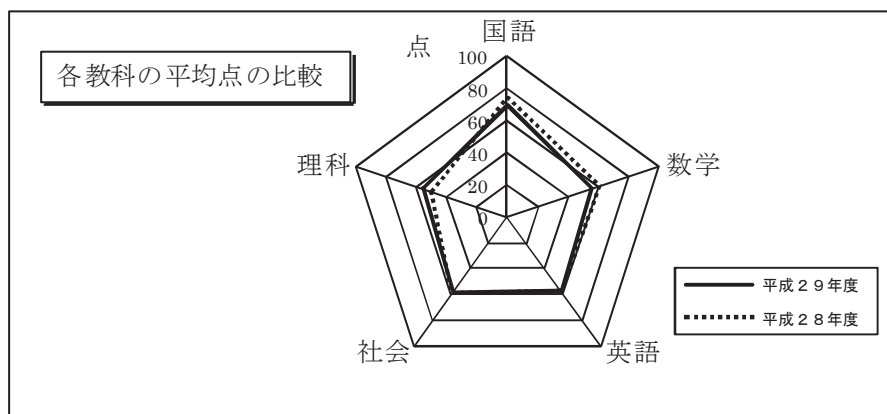
(3) 教科別平均点

国 語	数 学	英 語	社 会	理 科
69.5点 (73.9点)	56.3点 (60.9点)	57.8点 (57.4点)	58.6点 (59.3点)	55.9点 (50.6点)

(注1) 各教科の満点は100点である。

(注2) 記述式の問題や作図の問題では、各学校で部分点を与えるなど採点上の配慮を行っている。

(注3) 教科別平均点欄の（ ）内の数字は、平成28年度入学者選抜学力検査における各教科の平均点である。



2 各教科

(1) 国語

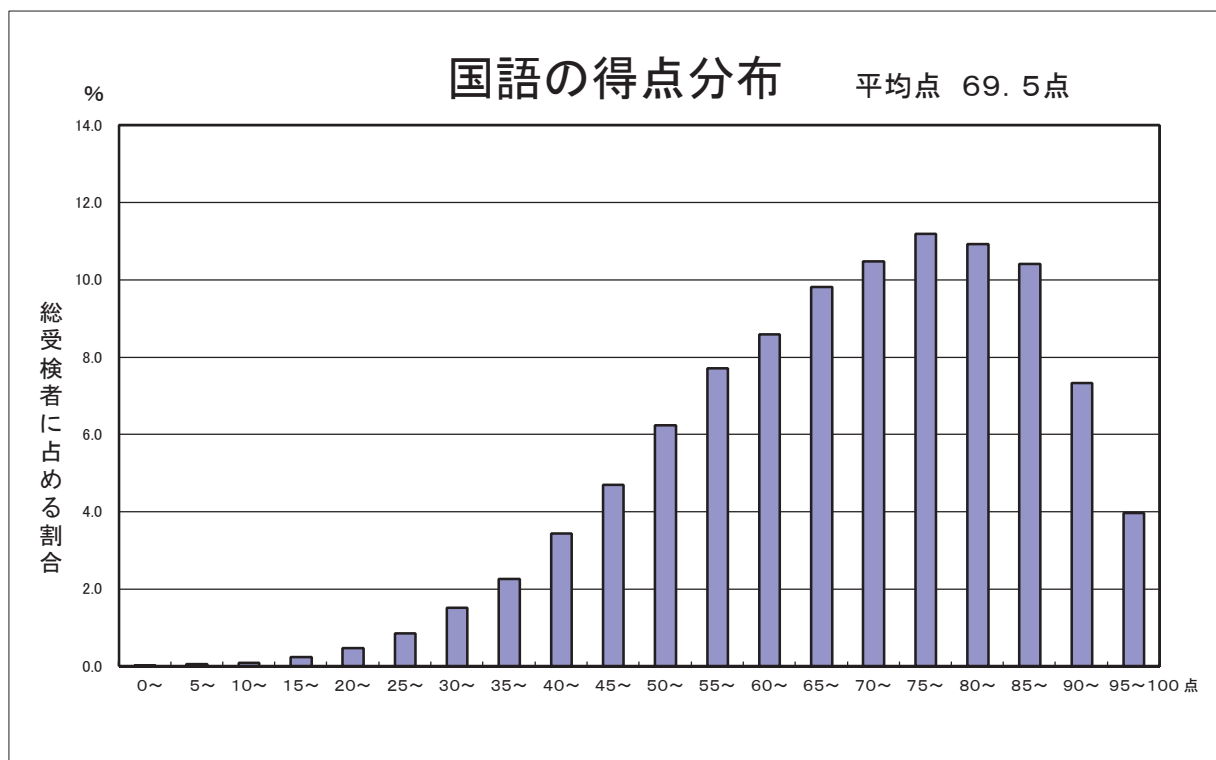
ア 出題の方針

国語を適切に表現し正確に理解する能力をみるとともに、伝え合う力や思考力及び想像力を総合的にみる。

イ 各問のねらい

- 1 漢字を正しく読む能力をみる。
- 2 漢字を正しく書く能力をみる。
- 3 文学的な文章を読み、叙述や描写などに即して、語句や文の意味、登場人物の様子、心情などを正しく理解する能力をみる。
- 4 説明的な文章を読み、叙述や文脈などに即して、語句や文の意味、文章の構成及び要旨などを正しく読み取る能力をみるとともに、考えが正確に伝わるように構成を工夫しながら、相手や目的に応じて自分の意見を論理的に表現する能力をみる。
- 5 対談を含め、古典を引用した複数の資料を読み、古典並びに現代の語句及び資料の内容について理解する能力をみるとともに、発言の意図や役割を理解することを通して伝え合う力をみる。

ウ 得点分布状況



〈昨年度との比較〉

平均点は69.5点となり、昨年度より4.4点下降した。

今年度は、分布のピークが昨年度の80点～84点から75点～79点に移るとともに、80点以上の受検者の割合が減少した。

エ 各問の内容及び正答率並びに誤答分析

(ア) 各問の内容及び正答率

- 1 漢字を正しく読む能力をみる問題とした。
- 2 漢字を正しく書く能力をみる問題とした。
- 3 家族や友人との交流を通じて自分の生き方について考え、成長していく少年の姿を描いた小説を読み、表現の特徴や人物の様子、心情などを読み取る問題とした。
- 4 「食生活と歴史のかかわり」について論じた文章を読み、文脈に則して内容を正確に読み取る問題、筆者の主張を正確に読み取る問題、文脈から段落の役割を捉える問題、本文の主題を踏まえて自分の意見を聞き手に分かりやすく伝える力をみる問題とした。
- 5 芭蕉の俳句に関する対談及び古典の一部を読み、歴史的仮名遣いを含む語句を答える問題、話の進め方の特徴を読み取る問題、要旨を捉える問題、語句のはたらきや意味を答える問題とした。

(イ) 主な誤答例等

- 1 (3)「ちようやく」の正答率が低く、「ひやく」と読み誤答が多かった。
- 2 (2)「善戦」、(3)「財源」の正答率が低く、(2)は「全戦」や「前戦」、(3)は「材源」や「材原」と書く誤答が多かった。
- 3 [問1]では、「エ」という誤答が多かった。これは、祥子の話す言葉や一真の「目を凝らす」などの表現から登場人物の言動の意味を理解する力が十分ではないためと考えられる。また、[問2]では、「イ」という誤答が多かった。これは、傍線部の表現が、祖父の絵に感銘を受けた一真が心の中で感じた言葉を表していることを理解できなかったためと考えられる。
- 4 [問1]では、「エ」という誤答が多かった。これは、「絶対年代の決定」が「生活史研究にとって致命的な欠陥ではない」理由を、生活史研究の現状や目的、近隣諸科学との関係についての叙述や文脈からの確に捉えられなかったためと考えられる。また、[問5]では、「食料の獲得と分配」が、文化や価値観を形成したという本文の内容を踏まえずに、「食生活と歴史」というテーマにだけ言及した解答が目立った。これは、文章全体を通して表現されている筆者の主張を十分に理解できなかったためと考えられる。また、自分の考えの根拠として体験や見聞を挙げているものの、それらがテーマや自分の考えに適さないものが多かった。自分の考えが相手に効果的に伝わるように、自分の考えと根拠を対応させて書く力が十分ではないためと考えられる。
- 5 [問1]では、「ウ」という誤答が多かった。これは、対談と口語訳、口語訳と原文のように関連する複数の資料を対応させて理解する力が十分ではないためと考えられる。また、[問4]では、「イ」という誤答が多かった。これは、対談の内容の理解に加え、話し手の考えなどを聞き取るための効果的な聞き方について、理解が十分ではないためと考えられる。

大問	小問	配点	小問正答率	大問正答率
1	(1)	2	77.8%	83.9%
	(2)	2	89.2%	
	(3)	2	68.7%	
	(4)	2	89.4%	
	(5)	2	94.1%	
2	(1)	2	61.5%	56.8%
	(2)	2	25.5%	
	(3)	2	53.6%	
	(4)	2	66.0%	
	(5)	2	77.6%	
3	※ [問1]	5	55.1%	81.7%
	※ [問2]	5	69.2%	
	※ [問3]	5	98.5%	
	※ [問4]	5	90.5%	
	※ [問5]	5	95.0%	
4	※ [問1]	5	51.5%	☆63.3%
	※ [問2]	5	65.1%	
	※ [問3]	5	63.8%	
	※ [問4]	5	60.6%	
	[問5]	10	☆75.3%	
5	※ [問1]	5	57.2%	60.2%
	※ [問2]	5	60.8%	
	※ [問3]	5	63.5%	
	※ [問4]	5	52.9%	
	※ [問5]	5	66.3%	

(注1) ☆は部分正答も含めた割合

(注2) ※は記号選択式の問題

オ まとめと指導の改善の視点

- (ア) 1の正答率の高さからは、漢字の読み方についての知識はおおむね身に付いていると考えるが、2の正答率の低さからは、文脈に即して正しく漢字を書く力が十分ではないと考えられる。漢字の学習において、漢字を正確に理解させるとともに、読書に親しませることで、文脈に即した正しい漢字の使い方に慣れさせることが大切である。また、「へん」や「つくり」など漢字の構成要素に着目した指導や、文章を書かせる際に辞書等を用いて漢字の正確な形や語句を確認させることで、漢字の基礎的・基本的な力を確実に身に付けさせることが必要である。
- (イ) 3の[問3]、[問5]の正答率の高さから、登場人物の心情や様子を読み取る力はある程度身に付いていると考えるが、これまでに学習してきた語彙や表現の技法などの知識を活用しながら、登場人物の言動の意味を読み取る力や表現の特徴について考える力は十分ではないと考えられる。文学的な文章の学習において、多義的な意味を表す語句の文脈上での意味を吟味しながら登場人物の言動の意味について考えさせたり、特徴的な表現について、表現の技法に関する既習の知識を活用させながら、その効果について考えさせたりすることが大切である。
- (ウ) 4の[問1]の正答率の低さ、[問5]の解答の内容から、叙述や文脈に即して、文章の論旨や筆者の主張を読解する力が十分ではないと考えられる。説明的な文章の学習において、文章の内容を把握するために、目的に応じて段落ごとに内容を捉えたり情報を要約したりする指導や、筆者の主張に対し、根拠を明確にして自分の考えをまとめる指導が必要である。
- (エ) 5の[問4]の正答率の低さから、相手の状況に応じて話す力が十分ではないと考えられる。日頃の授業において、相手の意図を考えながら聞くことを意識させ、話の途中で聞き手に問いかけたり質問を促したりするなど、話の中で理解を深めていくための効果的な話し方や聞き方についての指導が必要である。

(2) 数学

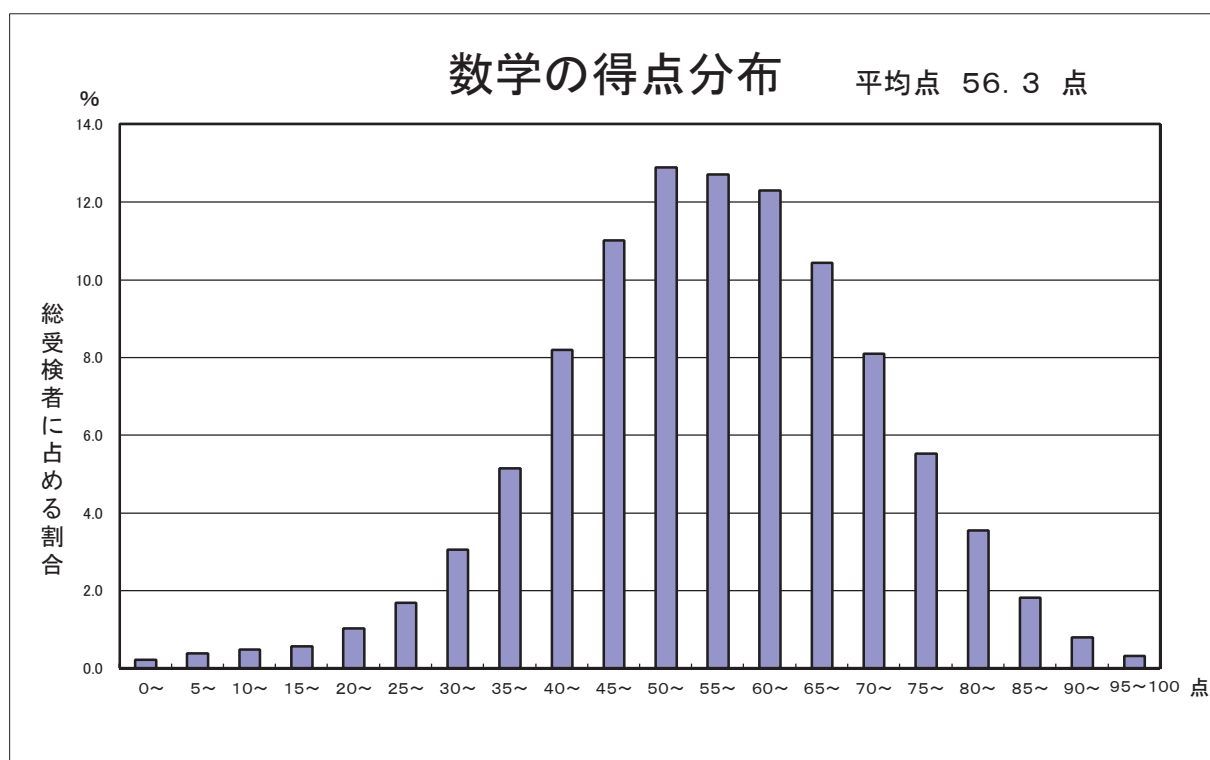
ア 出題の方針

数量や図形などに関する基礎的・基本的な事項についての知識・理解をみるとともに、数学的な見方や考え方、数学的な技能に関する能力をみる。

イ 各問のねらい

- 1 数と式，図形，関数，資料の活用の各領域に関する基礎的・基本的な事項についての知識・理解及び数学的な技能に関する能力をみる。
- 2 数学的活動の場面をもとに，数学的な見方や考え方に基づいて事象を数理的に考察し処理する能力や，推論の過程を的確に表現する能力をみる。
- 3 関数についての知識・理解をみるとともに，関数関係を表現し，見通しをもって論理的に考察し処理する能力をみる。
- 4 平面図形についての知識・理解をみるとともに，見通しをもって論理的に考察し処理する能力や，推論の過程を的確に表現する能力をみる。
- 5 空間図形についての知識・理解をみるとともに，図形に対する直観的な見方や考え方を基に，見通しをもって論理的に考察し処理する能力をみる。

ウ 得点分布状況



〈昨年度との比較〉

平均点は56.3点となり，昨年度より4.6点下降した。

今年度は，分布のピークが昨年度と同様に50点～54点となり，80点以上の受検者の割合が減少した。

エ 各問の内容及び正答率並びに誤答分析

(ア) 各問の内容及び正答率

- 1 計算問題や作図など基礎的・基本的な事項についての知識・理解及び数学的な技能に関する能力をみる問題とした。
- 2 上から順に1段目に2個、2段目に3個、3段目に4個と1段ごとにマスを増やし、左端のマスが縦にそろうように5段まで並べたものを基に、マスに入っている数の規則性から、マスに入る数を求める問題、5段目の6個のマスに入る数の和を、数理的に考察し、文字を用いて処理する能力や推論の過程を的確に表現する能力をみる問題とした。
- 3 一次関数を題材として、直線上にある点の座標を求める問題、2点を通る直線の式を求める問題、三角形の面積を考察し処理する能力をみる問題とした。
- 4 長方形と半円を題材として、文字を用いた式で角の大きさを表す問題、三角形の相似を証明する問題、相似な三角形の性質等を組み合わせる線分の長さを求める問題とした。
- 5 三角錐を題材として、空間図形における線分と面の位置関係に着目し、立体の内部を通る線分の長さを求める問題、錐体の中にできる立体の体積を求める問題とした。

大問	小問	配点	小問正答率	大問正答率	
1	[問 1]	5	92.9%	☆79.9%	
	[問 2]	5	95.0%		
	[問 3]	5	70.6%		
	[問 4]	5	91.2%		
	[問 5]	5	94.8%		
	[問 6]	5	83.9%		
	※ [問 7]	5	74.5%		
	[問 8]	5	49.3%		
	[問 9]	6	☆67.3%		
2	※ [問 1]	5	68.8%	☆39.9%	
	[問 2]	7	☆11.0%		
3	[問 1]	5	81.5%	35.3%	
	[問 2]	①	5		20.8%
		②	5		3.5%
4	※ [問 1]	5	42.7%	☆35.3%	
	[問 2]	①	7		☆53.7%
		②	5		9.5%
5	[問 1]	5	33.8%	18.2%	
	[問 2]	5	2.6%		

(注1) ☆は部分正答も含めた割合

(注2) ※は記号選択式の問題

(イ) 主な誤答例等

- 1 [問 3] では、「4」という誤答が多かった。これは、和と差の積の展開の公式を誤って用いて計算したためと考えられる。また、[問 8] では、「 $\frac{5}{6}$ 」という誤答が多かった。これは、10未満の場合の数を求めて計算したためと考えられる。
- 2 [問 2] では、部分正答を含めても正答率が11.0%と低く、無答率は56.2%と高かった。これは、5段目の6個のマスに入る数を a 、 b を用いて的確に表現することができなかつたためと考えられる。
- 3 [問 2] ①では、「 $y = \frac{3}{8}x + \frac{9}{2}$ 」という誤答が多かった。これは、面積を2等分する点をOAの midpoint と判断したためと考えられる。[問 2] ②の正答率は3.5%と低く、無答率は28.5%と高かった。これは、直線上の点の座標を、文字を用いた式で表し、面積の大小関係を正しく処理する力が十分でなかつたためと考えられる。
- 4 [問 1] では、「イ」、「ウ」という誤答が多かった。これは、円周角と中心角の関係を誤ったり、弧の長さを求める公式を誤って用いたりしたためと考えられる。[問 2] ②の正答率は9.5%と低く、無答率は31.3%と高かった。これは、相似な三角形の線分の比の関係を正しく捉えることができなかつたためと考えられる。
- 5 [問 2] の正答率は2.6%と低く、無答率は38.9%と高かった。これは、立体の中にできる錐体の底面や高さを正しく捉えることができなかつたためと考えられる。

オ まとめと指導の改善の視点

- (ア) 1の正答率の高さから、基礎的・基本的な事項についての知識・理解及び数学的な技能についてはおおむね定着しているが、3 [問 2] ②及び4 [問 2] ②の正答率の低さから、基礎的・基本的な事項を組み合わせる考察する力が十分ではないと考えられる。基礎的・基本的な事項を基にして、日常生活や社会における事象等を言葉や数、式などを用いて表現し、数学的に処理して問題を解決する指導を充実させることが必要である。
- (イ) 2 [問 2] の正答率、4 [問 2] ①の正答率が昨年度よりも低下していることから、文字式を利用した証明については条件を文字で表し説明する力、図形の証明では、証明を構成する要素を正しく捉える力を育むことが課題であると考えられる。証明の問題については、問題文から条件を読み取り、式を立て結論を導くとともに、その推論の過程を相手に分かりやすく伝える指導を充実させる必要がある。また、考えたことや工夫したことなどを数学的な表現を用いて説明し伝え合う活動を通して、正確に、分かりやすく表現する能力を一層高める指導が必要である。
- (ウ) 5の正答率の低さから、立体の中にできる平面等を的確に捉える力が十分ではないと考えられる。[問 2] の結果から、特に空間における線分と面の位置関係を捉えて空間の中にできる立体を考えることや、空間図形を平面図形に帰着させて考える指導を充実させることが必要である。

(3) 英語

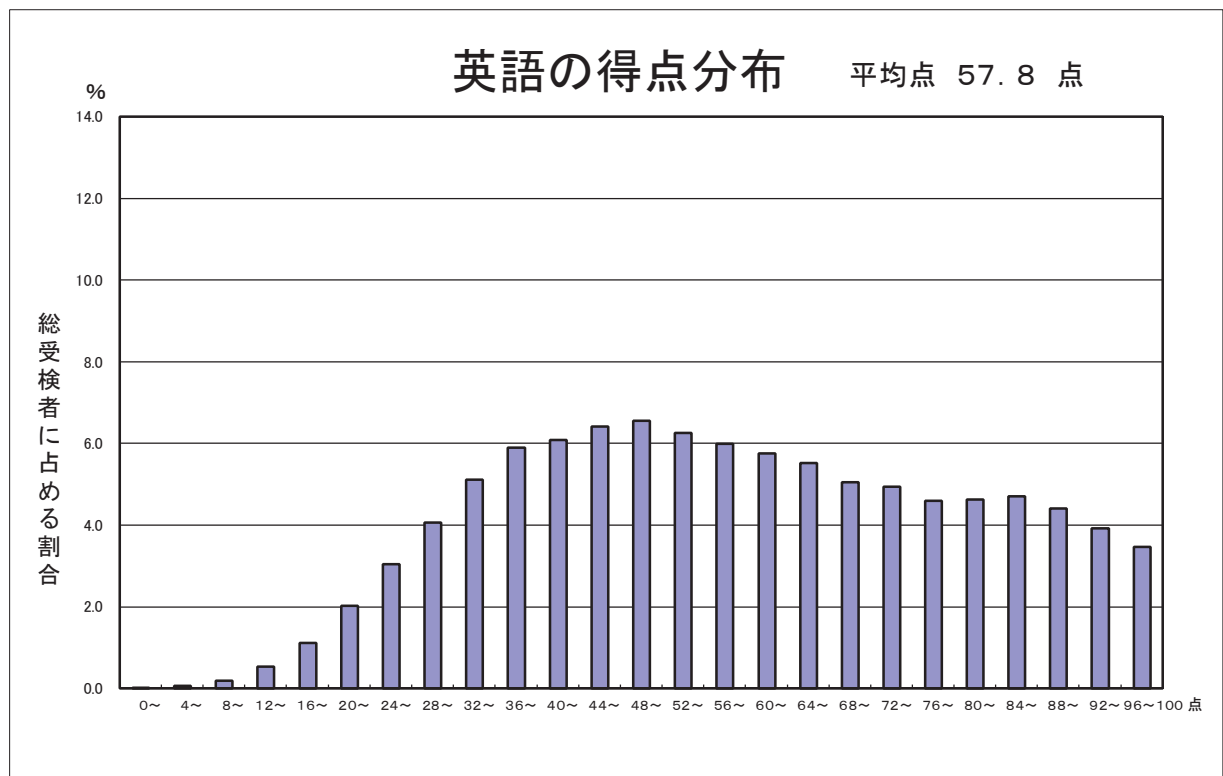
ア 出題の方針

初歩的な英語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解するとともに、自分の考えなどを表現するコミュニケーション能力をみる。

イ 各問のねらい

- 1 自然な口調で話される英語を聞いて、その具体的な内容や大切な部分を把握したり、聞き取った事柄について英語で表現したりする能力をみる。
- 2 英語によるコミュニケーションを通して身近な課題を解決する能力をみるとともに、必要な情報を得たり、自分の考えを英語で表現したりする能力をみる。
- 3 まとまりのある対話文を読み、その流れや大切な部分を把握する能力をみる。
- 4 物語文を読み、そのあらすじや大切な部分を把握する能力をみる。

ウ 得点分布状況



〈昨年度との比較〉

平均点は57.8点となり、昨年度より0.4点上昇した。

今年度は、分布のピークが昨年度の68点~71点から48点~51点に移るとともに、80点以上の受検者の割合が増加した。

エ 各問の内容及び正答率並びに誤答分析

(ア) 各問の内容及び正答率

- ① 和太鼓を始めた時期を尋ねる対話や飼い犬についてのスピーチなどを聞き、その具体的な内容や大切な部分を把握したり、聞き取った事柄について英語で表現したりする能力をみる問題とした。
- ② ホームステイ先で日本文化に関するアンケート結果を見ながら話したり、書道について教えたりする場面を題材として、英語によるコミュニケーションを通して身近な課題を解決する能力をみる問題とした。
また、帰国後に受け取ったEメールに対して、登場人物になったつもりで返事のEメールを完成させる場面を設定し、「より多く英語を使用するための計画」について、自分の考えを英語で表現する能力をみる問題とした。
- ③ 野球の試合についての発言をきっかけに、与えられた役割を果たす一人一人の大切さについて認識するという内容の対話文を読んで、対話の流れや登場人物の行動を把握する能力をみる問題とした。
- ④ 食習慣の違いからお互いが紹介した食べ物を受け入れることができなかつた日本の高校生と留学生が、相手への配慮や工夫により、自分たちにとって異なるものをお互いに受け入れることができるようになることに気付いていくという内容の物語文を読んで、登場人物の心情の変化や物語の主題を把握する能力をみる問題とした。

(イ) 主な誤答例等

- ① Aの〈対話文3〉では、「イ」という誤答が多かった。これは、「How many times ~?」という質問の答えの根拠となる、「Have you ever been to Karuizawa?」「No. It will be the first time.」という一連の対話の内容を正しく理解できていなかったためと考えられる。また、Bの〈Question2〉では、「She enjoyed talking.」という解答や「happy」を用いた文、「Monday to Friday.」などとする誤答が多かった。これは、質問に含まれる「can」が正しく聞き取れていなかったり、「more often by walking with Max」の内容を正しく理解できていなかったりしたためと考えられる。
- ② 3(2)では、「より多く英語を使用するための計画」という主題に正対していない解答が見られた。これは、自分の考えを書こうとしているものの、書くべき主題を前後の文脈から正しく読み取ることができなかったことにより、全体としてまとまりのある返事のEメールを完成することができなかったためと考えられる。また、主題に正対していても、文構造や語法についての理解が十分でない解答が見られた。
- ③ 〔問3〕では、「イ」という誤答が多かった。これは、本文の内容をある程度理解しているものの、下線部の省略されている語を正しく理解できていなかったり、同じ内容を別の表現方法で表す場合に求められる、文構造や語法についての理解が十分でなかったりしたためと考えられる。また、〔問5〕では、「ア」という誤答が多かった。これは、下線部の発言について、省略されている内容を対話の流れに沿って正しく理解することができなかったためと考えられる。
- ④ 〔問2〕では、「エ」と「イ」、「ウ」と「ア」を取り違える誤答が多かった。また、〔問3〕(2)では、「ウ」という誤答が多かった。これは、本文中のあらすじや大切な部分を把握する能力が不足していたり、選択肢中にある一部の語句のみに着目して、それが本文中に書かれていることから判断して解答したりしたためと考えられる。

オ まとめと指導の改善の視点

- (ア) ①及び②の結果から、まとまりのある英語を聞いて、その概要や要点を適切に聞き取り、聞き取った事柄を英語で正しく表現する力や自分の考えを英語で正しく表現する力を一層育成するために、聞く活動だけ、書く活動だけといった一つの活動に特化した指導ではなく、様々な言語活動を通して、コミュニケーションを図ることができるよう、4技能を統合した学習活動をより多く取り入れた指導の充実が必要である。
- (イ) ③及び④の結果から、対話の流れや物語のあらすじ、本文の大切な部分を把握する力を高めるために、まとまった量の文章を用いて、時系列を整理させたり、登場人物の発言や行動に注意して読ませたりすることが必要である。また、省略された部分や同じ内容を別の表現方法を用いて言い換えた部分などにも触れながら、読み取った事柄について、正しく理解できているかをみるために、本文の内容について、英語の質問に英語の文で答えさせるといった指導が必要である。

大問	小問	配点	小問正答率	大問正答率	
①	※A	〈対話文1〉	4	72.3%	☆64.3%
		〈対話文2〉	4	87.8%	
		〈対話文3〉	4	56.6%	
	B	※〈Question1〉	4	78.5%	
		〈Question2〉	4	☆26.1%	
②	※1		4	70.4%	☆64.7%
	※2		4	80.8%	
	3	※(1)	4	65.6%	
		(2)	12	☆42.1%	
③	※〔問1〕		4	85.5%	57.5%
	※〔問2〕		4	49.3%	
	※〔問3〕		4	45.0%	
	※〔問4〕		4	72.1%	
	※〔問5〕		4	44.4%	
	※〔問6〕		4	55.7%	
	※〔問7〕		4	50.7%	
④	※〔問1〕		4	60.6%	43.9%
	※〔問2〕		4	35.3%	
	※〔問3〕	(1)	4	44.8%	
		(2)	4	35.0%	
		(3)	4	42.4%	
	※〔問4〕	(1)	4	49.3%	
		(2)	4	39.5%	

(注1) ☆は部分正答も含めた割合

(注2) ※は記号選択式の問題

(4) 社会

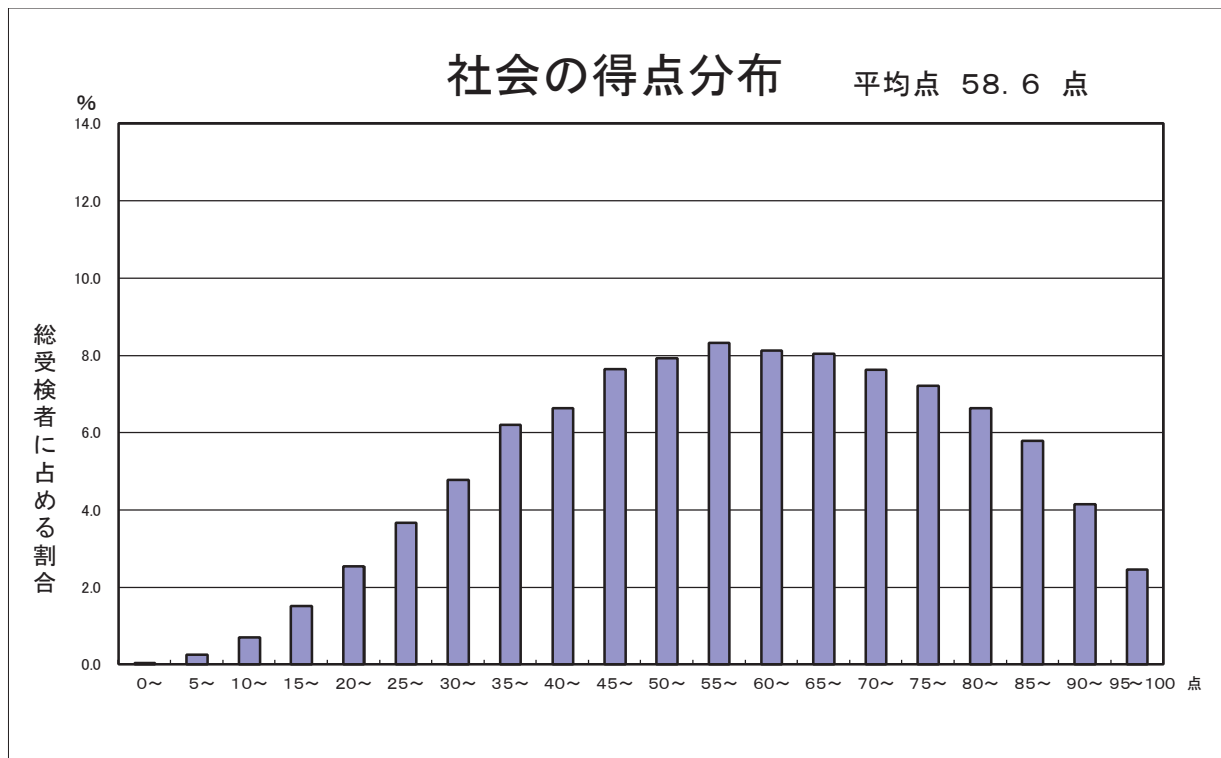
ア 出題の方針

地理的分野，歴史的分野及び公民的分野について，基礎的・基本的な知識・理解及び技能をみるとともに，地図や統計等の資料を活用して，社会的事象を多面的・多角的に考察し，適切に表現する能力をみる。

イ 各問のねらい

- 1 地理的分野，歴史的分野及び公民的分野について，基礎的・基本的な知識・理解及び技能をみる。
- 2 世界の諸地域の特色や我が国と世界の結び付きについて，地図や統計等の資料を活用して考察する能力をみる。
- 3 我が国の国土や地域的特色について，地図や統計等の資料を活用して，自然環境や産業等の面から考察し，適切に表現する能力をみる。
- 4 世界の歴史を背景にした我が国の歴史について，年表等の資料を活用して，政治，経済及び文化等の面から考察する能力をみる。
- 5 現代の社会的事象について，統計等の資料を活用して，政治や経済等の面から考察する能力をみる。
- 6 現代社会の諸問題について，地図や統計等の資料を活用して，地理的分野，歴史的分野及び公民的分野の3分野から総合的に考察し，適切に表現する能力をみる。

ウ 得点分布状況



〈昨年度との比較〉

平均点は58.6点となり，昨年度より0.7点下降した。

今年度は，分布のピークが昨年度の65点～69点から55点～59点に移るとともに，80点以上の受検者の割合が増加した。

エ 各問の内容及び正答率並びに誤答分析

(ア) 各問の内容及び正答率

- 1 略地図，写真及び文章から得られる情報と地形図から得られる情報を基にした作図，我が国の主な歴史的文化的財の所在地，普通選挙について問う問題とした。
- 2 大西洋に面する国々を題材として，海流，気候及び産業の様子，言語や産業などの様子，緯度，経度及び貿易などの様子や日本との結び付きについて問う問題とした。
- 3 都市と村落を題材として，河口に位置する都市の自然環境及び産業の様子，主な港湾の輸出額と輸出額の上位 3 位の品目の推移，A村のガソリンスタンド存続に関わる取組を行った理由について資料を基に説明する問題とした。
- 4 繊維製品を題材として，弥生時代から平安時代にかけて外交など布を用いた様子，「見返り美人図」が描かれた時期，明治時代の我が国の経済の発展を支えた繊維製品の生産と貿易の役割，明治時代から現代にかけて，東京での繊維製品に関する主な出来事について問う問題とした。
- 5 起業を題材として，経済活動の自由を規定している日本国憲法の条文，間接金融の仕組みや働き，景気の動向，製造物責任法について問う問題とした。
- 6 経済成長を題材として，近年，経済成長が著しい国の様子，我が国のエネルギー政策，グローバル人材育成戦略を発表した理由について資料を基に説明する問題とした。

大問	小問	配点	小問正答率	大問正答率
1	〔問 1〕	5	54.8%	59.3%
	※〔問 2〕	5	42.2%	
	※〔問 3〕	5	81.0%	
2	※〔問 1〕	5	68.8%	59.0%
	※〔問 2〕	5	51.2%	
	※〔問 3〕	5	57.0%	
3	※〔問 1〕	5	78.9%	☆60.8%
	※〔問 2〕	5	35.5%	
	〔問 3〕	5	☆68.3%	
4	※〔問 1〕	5	72.1%	53.4%
	※〔問 2〕	5	49.0%	
	※〔問 3〕	5	50.2%	
	※〔問 4〕	5	42.2%	
5	※〔問 1〕	5	39.8%	52.9%
	※〔問 2〕	5	58.0%	
	※〔問 3〕	5	61.8%	
	※〔問 4〕	5	52.0%	
6	※〔問 1〕	5	42.0%	☆53.5%
	※〔問 2〕	5	72.5%	
	〔問 3〕	5	☆45.9%	

(注 1) ☆は部分正答も含めた割合

(注 2) ※は記号選択式の問題

(イ) 主な誤答例等

- 1 〔問 2〕では，「ウ」という誤答が多かった。これは，世界遺産に登録されている文化財についての理解や奥州という地域を表す名称についての理解が十分でないためと考えられる。
- 2 〔問 3〕では，統計資料については「ウ」と正しく選択したものの，略地図中の位置については「R」と誤って選択した誤答が多かった。これは，説明文と統計資料を関連付けて「ウ」までは判断することはできているが，説明文に示されている「東経約 20 度の子午線が通っている」という情報から略地図を活用して，この国が南アフリカ共和国であることを特定することができなかったためと考えられる。
- 3 〔問 2〕では，統計資料については「ウ」，略地図中の位置については「R」と，共に誤って選択した誤答が多かった。これは，説明文と統計資料を関連付けて判断できず，説明文に示されている「南西から北東に入り込む湾の奥に位置し，複数の海峡で外洋と結ばれている」という情報から略地図を活用して，この港湾が大阪港であることを特定することもできなかったためと考えられる。
- 4 〔問 2〕では，「イ」という誤答が多かった。これは，戦国時代から江戸時代にかけて歴史の大きな流れと各文化の特色についての学習が十分でないためと考えられる。
- 5 〔問 1〕では，「ウ」という誤答が多かった。これは，日本国憲法の基本的な考え方と日常の具体的な事例を結び付けた学習が十分でないためと考えられる。
- 6 〔問 1〕では，Bについては「ウ」，Cについては「ア」と，共に誤って選択した誤答が多かった。これは，地理的分野，歴史的分野及び公民的分野において，様々な観点から世界地図を活用して世界の主な国々の名称と位置を身に付けることが十分でないためと考えられる。

オ まとめと指導の改善の視点

- (ア) 地理的分野については，地理学習の全般に渡って様々な観点から地球儀や地図帳を活用し，世界の地域構成を大観させる指導の継続が必要である。また，複数の地理情報を関連付けて考察し，地域的特色を理解させる学習の一層の充実が求められる。
- (イ) 歴史的分野では，我が国の歴史の大きな流れを理解させる指導の継続とともに，様々な資料を活用し，歴史的事象を多面的・多角的に考察させる学習の一層の充実が求められる。
- (ウ) 公民的分野については，具体的な事例を取り上げ，日本国憲法の基本的な考えを理解させる学習の一層の充実が求められる。
- (エ) 論述問題については，社会的事象から課題を見出し，多面的・多角的に考察したことについて適切に表現する力を身に付けさせる学習の一層の充実が求められる。

(5) 理科

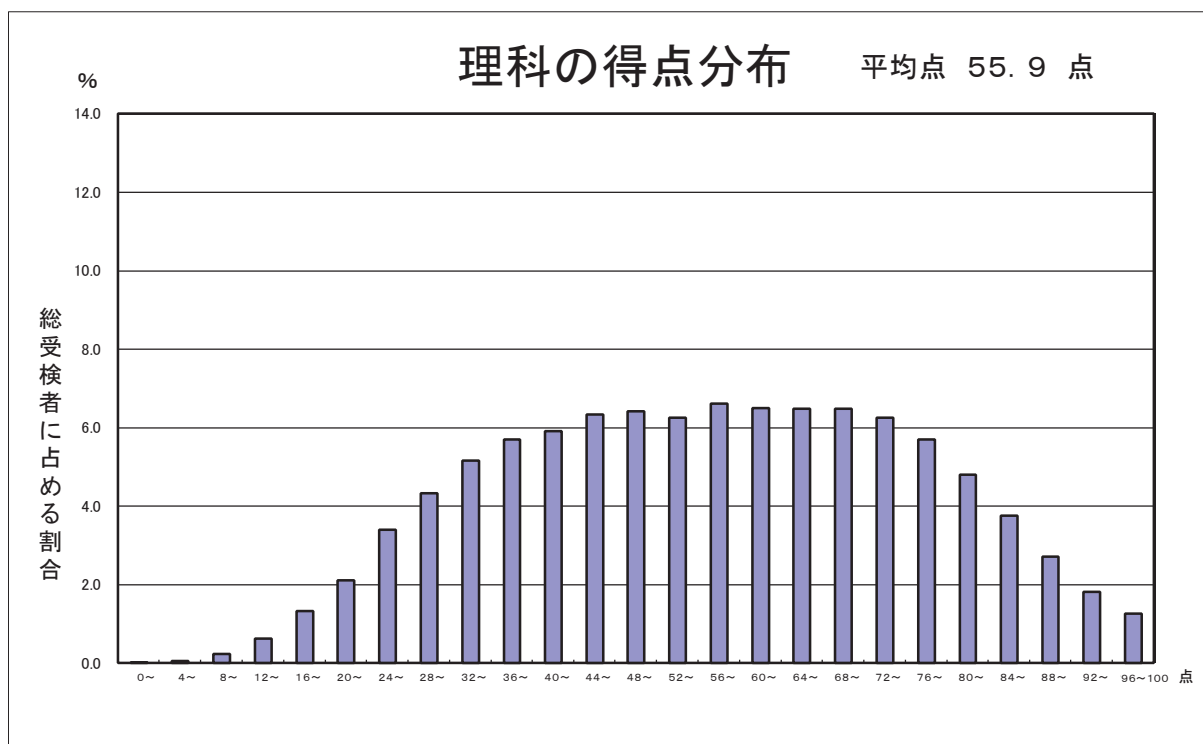
ア 出題の方針

自然の事物・現象について、基礎的・基本的な事項の知識・理解をみるとともに、観察・実験や探究的な活動を通して科学的な思考力や表現力をみる。

イ 各問のねらい

- 1 第1分野（物理・化学）と第2分野（生物・地学）の各領域における基礎的・基本的な事項の知識・理解をみる。
- 2 日常生活にかかわる探究的な活動を通して、科学的な思考力や複数の領域にわたる事項の知識・理解をみる。
- 3 地学的領域について、基礎的・基本的な事項の知識・理解をみるとともに、観察を通して科学的な思考力をみる。
- 4 生物的領域について、基礎的・基本的な事項の知識・理解をみるとともに、観察・実験を通して科学的な思考力をみる。
- 5 化学的領域について、基礎的・基本的な事項の知識・理解をみるとともに、実験を通して科学的な思考力や表現力をみる。
- 6 物理的領域について、基礎的・基本的な事項の知識・理解をみるとともに、実験を通して科学的な思考力や表現力をみる。

ウ 得点分布状況



〈昨年度との比較〉

平均点は55.9点となり、昨年度より5.3点上昇した。

今年度は、分布のピークが昨年度の36点～39点から56点～59点に移るとともに、80点以上の受検者の割合が増加した。

エ 各問の内容及び正答率並びに誤答分析

(ア) 各問の内容及び正答率

- 1 各領域における基礎的・基本的な事項の知識・理解をみる問題とした。
- 2 海や山の自然現象に関する探究的な活動を通して、複数の領域にわたる事項の知識・理解及び科学的な思考力をみる問題とした。
- 3 気象観測を通して天気の変化についての知識・理解及び科学的な思考力をみる問題とした。
- 4 唾液の働きを調べる実験を通して、ヒトの生命を維持する仕組みについての知識・理解及び科学的な思考力をみる問題とした。
- 5 物質の性質を調べ区別する実験を通して、様々な化学変化についての知識・理解及び科学的な思考力や表現力をみる問題とした。
- 6 質量の異なる小球の運動の実験を通して、運動とエネルギーの性質についての知識・理解及び科学的な思考力や表現力をみる問題とした。

(イ) 主な誤答例等

- 1 〔問 7〕では、3日後の同じ時間に真南より西側に見えると考えて求めた「ウ」という誤答が多かった。これは、月の公転と見え方についての理解が十分ではないためと考えられる。
- 2 〔問 4〕では、地点Aと地点Bのずれの大きさが1mであると考えて求めた「エ」という誤答が多かった。これは、地層のでき方を考察し、重なり方や広がり方の規則性について思考する力が十分ではないためと考えられる。
- 3 〔問 2〕では、「エ」という誤答が多かった。これは、前線の通過に伴う天気の変化についての理解が十分ではないためと考えられる。
- 4 〔問 4〕では、＜仮説＞の①に当てはまる選択肢の誤りが多かった。これは、分解されずに残っているデンプンが袋の微小な穴から出ないことを確かめるために、どのような実験結果が得られればよいかを思考する力が十分ではないためと考えられる。
- 5 〔問 3〕では、物質Eを特定できていない誤答が多かった。これは、複数の化学変化の結果を組み合わせて物質を特定していく力が十分ではないためと考えられる。
- 6 〔問 1〕では、小球Aと小球Bにそれぞれ働く重力の大きさが等しいと考えて求めた「エ」という誤答が多かった。これは、運動の様子と質量の関係についての理解が十分ではないためと考えられる。

大問	小問	配点	小問正答率	大問正答率
1	※〔問 1〕	4	60.1%	51.1%
	※〔問 2〕	4	55.3%	
	※〔問 3〕	4	55.1%	
	※〔問 4〕	4	61.2%	
	※〔問 5〕	4	38.7%	
	※〔問 6〕	4	57.5%	
	※〔問 7〕	4	29.8%	
2	※〔問 1〕	4	67.6%	53.6%
	※〔問 2〕	4	77.6%	
	※〔問 3〕	4	46.8%	
	※〔問 4〕	4	22.5%	
3	※〔問 1〕	4	77.5%	74.0%
	※〔問 2〕	4	67.5%	
	※〔問 3〕	4	77.0%	
4	※〔問 1〕	4	77.8%	53.0%
	※〔問 2〕	4	67.9%	
	※〔問 3〕	4	54.1%	
	※〔問 4〕	4	12.1%	
5	※〔問 1〕	4	73.5%	☆62.6%
	※〔問 2〕	4	61.9%	
	〔問 3〕	4	☆52.4%	
6	※〔問 1〕	4	21.8%	☆34.3%
	〔問 2〕	4	☆65.8%	
	〔問 3〕	4	☆23.3%	
	※〔問 4〕	4	26.2%	

(注1) ☆は部分正答も含めた割合

(注2) ※は記号選択式の問題

オ まとめと指導の改善の視点

(ア) 各領域における基礎的・基本的事項の知識・理解についてはおおむね定着しているが、1〔問 7〕と2〔問 4〕の正答率が低いことから、複数の事象を多角的、統合的に考察する力が十分ではないと考えられる。引き続き、基礎的・基本的事項の知識・理解の定着を図るとともに、身近な題材を取り上げて、理科の学習の意義や有用性を実感させ、既習事項や観察・実験の結果、複数の事物・現象等に関連付けたり活用したりする学習活動を充実させていくことが必要である。

(イ) 4〔問 4〕の正答率が低いことから、基礎的・基本的事項の知識・理解を定着させるとともに、観察・実験の結果から分析して解釈することに加え、学習した知識に基づき仮説を設定し観察・実験によって仮説を検証することなどの科学的に探究する学習活動を充実させていくことが必要である。